

レポート

第13回 金融教育に関する 小論文・実践報告コンクール表彰式

昨年12月26日、第13回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール（主催：金融広報中央委員会、後援：金融庁、文部科学省、日本銀行）の表彰式が金融広報中央委員会の事務局がある日本銀行本店で開催されました。表彰式の模様をレポートするとともに受賞作品の概要をご紹介します。



コンクールの概要

募集部門	小論文部門、実践報告部門、研究校部門
応募資格	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・高等専門学校・高等専修学校教員、教職課程在籍または教職を目指す大学生、大学院生、大学教官等研究者
賞	<ul style="list-style-type: none"> 小論文部門・実践報告部門 特賞…1編（賞状・賞金30万円）、優秀賞…各部門2編（賞状・賞金10万円）、奨励賞…各部門3編（賞状・賞金3万円） 研究校部門 推奨実践事例賞…1～2編（賞状・賞金5万円）

表彰式では、金融広報中央委員会の吉國会長から受賞者に対して賞状と副賞が手渡されました。続いて、審査員を代表して国立教育政策研究所初等中等教育研究部長の大杉昭英氏から「今回のコンクールでは、次期学習指導要領改訂の先取りとも位置付けることのできる大変意欲的で多角的なアクティブ・ラーニングの実践や社会のニーズをとらえた明確な問題意識に基づ

く提言が多数寄せられました」との総評とともに、受賞作品一つひとつについての講評が行われました（各受賞作品への講評は、次頁以降をご覧ください）。



講評を行う国立教育政策研究所初等中等教育研究部長 大杉昭英氏

◎受賞名
特賞・小論文部門

◎作品タイトル

『将来の主権者を育てる金銭教育の展開
～行事を最大限活用した「コア学習」の先行的研究～』

◎受賞者

徳島県阿南市立富岡小学校教頭 島村孝氏

■この論文のポイント

・主権者教育に対する関心が高まっていくことを踏まえ、金融教育の中に主権者教育の観点を取り入れることを試みた。
・金融教育は座学や教材を使う形ではなく、行事を通じた主体的な体験をさせることによってより有意義となると考える筆者は、地元漁協の協力を得て、ワカメの養殖と販売に全校的に取り組むことを計画。生徒が販売者として、十分な商品知識を持ち、商品説明ができる能力を身に付



けるだけでなく、販売収益をどのように使うかを全校で議論して考えることとした。この点に「自分が投票権を得たときにどんな政策に税収を支出する人を選ぶか」という主権者教育の観点を取り入れている。

・1年生から6年生までの各学年が考えた販売収益の使い道と理由は、下表のとおりである。これを全校集会で提案し、議論を行った。学年間で発達段階に差があることを踏まえ、全校集会においてほかの学年から出された質問について、その場で即答できない場合には、持ち帰って検討したうえで、改めて回答する方法を採った。
・このうち、全校討論で議論となったのは、ブランコである。販売が好調であったとしても高額な遊具を購入することは無理だろうという空気が生まれた。これに対して提案した3年生は、

1週間余りをかけて学年全員で他学年からの質問に対する丁寧な回答を用意した。

・そして、各提案に優先順位を付けるにあたっては、子どもたち全員に10点を与え、3学年以上の提案に振り分ける（最高点は5点）という方式を採った。自分たちの提案を優先しつつも、次に優れた提案は何かを考えさせるためである。

・販売も好調で、700kgを全員が養殖ロープから切り分け袋詰めした2000袋のワカメは3時間で完売した。

■受賞者の声

この実践は全校生徒が30数名という前任校で行ったもので、教頭だった私も担任との掛け持ちでチャレンジしました。

法改正により、選挙権が18歳に引き下げられたことから、小学校段階における主権者教育という視点が今回のテーマでした。

主権者になるための公民的資質は何かと考えると、選挙でどういう人を選ぶかを判断する際、その候補者が自分たちの税金をどんな目的のために支出してくれるかという視点を持つことが大切です。そこで今回の実践では、「自分たちが販売活動で得たお金を何に使うのか」を考えるため

に1年生から6年生の学年別に意見を出し合い検討しました。こうした「実際に考える体験」が「子どもたちの力になる」ということが、今回の研究で見えてきたと思います。

■審査員の講評

小学校における複合的な体験学習を通じた児童の公民的な資質の育成について、数年にわたる複数学年の実践をもとに提案しています。本小論文は、身近な素材を使って、流通・販売を多角的に体験させ、児童に主体性をもって考えさせる実践内容が非常に充実している点が高く評価されました。

1年	花の種	学校や地域を花でいっぱいになりたい。
2年	本	古い本が多い図書館なので、新しい本をいっぱい読みたい。
3年	ブランコ	昼休みに順番待ちなしでいっぱい乗りたい。
4年	ベンチ	バスを待つ人にきれいなベンチを使ってもらいたい。
5年	校章旗	運動会で揚げる校章旗がないのを何とかしたい。
6年	遍路の杖立て	四国を巡るお遍路さんに杖を使ってもらいたい。
全校	車いす	昨年に続き、市内のお年寄りに使ってもらいたい。

◎受賞名
優秀賞・小論文部門

◎作品タイトル

「キャリア教育」としての「金融教育」
―大学における効果的な実施方法―

◎受賞者

宮城県仙台青葉学院短期大学教授
小形美樹氏



■この論文のポイント

・大学における「金融教育」の現状と課題を整理したうえで、現在多くの大学で行われている「キャリア教育」の中に「金融教育」の視点を織り込むことの必要性を説く。

・そのうえで、大学で金融教育を行うにあたっては、新生が入学アルバイトを始める5月ごろや国民年金に加入する20歳など学生にとって金融教育の効果が高まる時機をとらえて行うことが適当であるなど、カリキュラムの組み方や、教員の指導法をはじめとする実践的な方法論を展開する。

■受賞者の声

これまで短大や大学でキャリア教育や経営学を指導してきて、正しい金融知識を持たない学生が多いことに課題を感じていました。

■審査員の講評

授業では、学生たちに自分が18歳になるまでにかかったお金を計算させていますが、その金額の大きさに衝撃を受け、金融教育に関心を持つ学生が増えてきたと手応えを感じています。
奨学金を借りている学生も多いため、将来の返済プランまで考え、社会に出てから困らないだけの知識を身に付けてもらうためにも、理論と実践を結びつけながら、生活で実践的に生かせる金融教育を展開していきたいと思っています。

大学における金融教育の必要性と効果的な実施方法を提唱しています。大学における金融教育の必要性というタイムリーなテーマを取り上げ、導入の際のポイントや具体的なプロセスを年間カリキュラムも含めて提案していることが評価されました。

◎受賞名
優秀賞・小論文部門

◎作品タイトル

進路指導とリンクさせる金融教育の在り方について
―家計ゲームを通して主体的な選択を行う姿勢を育てる―

◎受賞者

広島県熊野町立熊野中学校教諭
池田優子氏



■この論文のポイント

・自分にとって何が必要か考え、責任をもって判断・選択を行う能力を備えることは、生徒の自立にとって重要である。

・こうした能力を高める点で進路指導と金融教育に共通性を見出す筆者は、従来の家計ゲームをブラッシュアップすることにより、高校進学に必要な費用を認識させ、主体的に進路選択を行う意識を向上させることを考えた。

■受賞者の声

ハガキなどの身近なモノの値段や、生活費にいくらかかっているかを知らないなど、金銭感覚が希薄な生徒が増えています。進学や就職、結婚などのライフイベントで必要となる費用を把握するとともに、限られた収入の中でやり繰りする力を身に付けることは、将来の自立に大切です。

■審査員の講評

そこで、この家計ゲームに取り組みました。引いたカードによって思わぬ出費を迫られたり、臨時収入が入ったり、野菜の値段が高騰するなどのゲーム性を取り入れたことにより、授業は大いに盛り上がりました。それとともに、万一に備えることの必要性を理解し、保険加入や収入の中から一定額を貯金することも大切であることを実感したようです。生徒たちが、単に進学費用を意識するだけでなく、学ぶ目的や将来を見通して進路を選択することの意義についても深く考えられるようになったことが大きな収穫です。

家計ゲームを中学生にとって切実な「自活・自立」と結びつけたことが新鮮であり、このことにより、家計管理という重要な学習課題に生徒たちが意欲的に取り組んでいる点が評価されました。

◎受賞名
優秀賞・実践報告部門

◎作品タイトル
金融教育との関連で実現する「考え、議論する道徳」
—金融教育を多面的に広げる、道徳の大主題学習を通じて—

◎受賞者

東京都東大和市立第八小学校指導教諭
野村宏行氏

■この論文のポイント

・小学校の道徳授業では「金融教育」お金の節度、節制」ととらえられる向きが多いが、金融教育プログラムでは、金融教育における道徳授業の役割が、より広い視野から期待されている。そこで、6年生を対象に、金融教育プログラムで示されるテーマを織り込んだ授業に取り組み、「考え、議論する道徳」と「金融教育の充実」を図った。

■受賞者の声

「お金と人生はどのようなにかかわっているのか」をテーマに、三つの教材を読み、考え、議論する授業を行いました。子どもたちのお金への関心は高く、問題意識を持って考えたい、自分も話したい、意欲的かつ主体的に議論でき、私自身もとても楽しい授業でした。



■審査員の講評

授業の前後でアンケートを取った結果、「お金やお金の使い方について学びたいか」「お金を得るために努力しようと思うか」という二つの項目で数値が向上。日記に「お金の使い方を考えてみたい」と書いてきた子や、職業選択を考える授業で「お金も大事」という意見が出たことでも、意識の高まりや金融教育の効果を実感できました。今後は、各学年の発達段階に合わせて発展するカリキュラムを作り、実践していきたいです。

◎受賞名
優秀賞・実践報告部門

◎作品タイトル
小学校中学年における「生きる力」を育成する金融教育の実践
『市場体験シミュレーションゲーム「Market Game」の開発と実践の報告』

◎受賞者

山梨県山梨学院小学校教諭 鈴木崇氏

■この論文のポイント

・小学校における「アントレプレナー教育」(起業家精神涵養教育)の手法を用いた社会科授業の実践報告。具体的には、筆者は、会社を設立し、さまざまな社会変化に対応して会社を経営していく市場体験型シミュレーションゲームを開発し、これを3年生の社会科の授業に取り入れた。

・お金を通して生産者や消費者の関係を疑似体験することの学習は、児童が社会の中で生きる多くの人々の努力や工夫をより強く感じることにつながるとの手応えを感じている。

■受賞者の声

このゲームでは、会社を立ち上げるために銀行からお金を借



■審査員の講評

り、情報収集に基づいて判断すること、市場の仕組みなどを学びます。子どもたちには、会社経営の楽しさや商品を売ることが社会貢献にもつながるなど、お金を得る営みの重要性や、将来、起業する道があることなどを知ってほしいのです。最初はこのマーケットゲームで学んだ児童が大学受験を迎えましたが、職業と直結した学科を選ぶ子が多く、手応えを感じています。小学校3年生が教室内で行うシミュレーション学習の実践の報告です。お菓子を販売する会社の経営という小学生の興味を引く設定のもと、市場変動に関する経済的な事象を次々と発生させ、対応を討議・発表させることを通じて、小学生の主体的な学びを実現している点が高く評価されました。

◎受賞名
推奨実践事例賞・研究校部門

◎作品タイトル

自ら考え、豊かに表現できる児童の育成
〜金融・金銭教育の視点を生かして〜

◎受賞者

東京都東京都教職員研修センター東京教師養成塾教授
(元八王子市立第二小学校校長) 小林 巧氏



■この論文のポイント

・筆者は、金融・金銭教育の視点
①見通す力、②自己決定力、
③社会とかわる力、④勤労
意欲、⑤コスト意識・経済感覚
⑥ものを大切にする力)を意
識しながら、社会科・生活科
の授業の質的向上を図った。
・具体的な実践を紹介しながら、こ
うした取り組みの効果として、教え
る側には、発問や展開の仕方など授
業力の向上が見られたこと、児童一
人ひとりには新しい思考の視点が生
まれ、多面的な見方、考え方がで
きるようになったことを指摘する。

■受賞者の声

校長として学校経営を担うなか、
小学校高学年になるにつれ、金銭
トラブルに関する生活指導が増え
ていく教育現場で、私は「金融教
育の必要性」を感じてきました。

■審査員の講評

金融教育の実践に慣れていない
先生も多かったため、私の役割は
校長としてリーダーシップを取り、
学校全体の教育課程に金融教育の
視点を取り入れることで、授業の
進め方を変化させることでした。
実践的な授業を進めながら、お金
を通して社会を見ることで、子ども
たちがより具体的に社会を観察した
り、考えたりすることを実感した教
員が多く、先生方の力の向上、金融
教育への理解を深めることができた
のは大きな成果だったと思います。

過去10年間における三つの小学
校における金銭教育研究校として
の研究および実践の内容を紹介し
ています。長年にわたる研究・実
践の成果を集大成され、他校にも
参考になる指導計画や全体目標の
体系を含めて紹介されているとし
て高く評価されました。

ここで紹介した上位入賞作品の全文は、「知るぽるとホームページ」http://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_kyoin/2016/ でご覧いただけます

優れた実践事例を金融教育の現場に

金融広報中央委員会会長 吉國 眞一



金融教育に関する小論文・実践
報告コンクールは、①わが国の金
融教育の発展に資する優秀な人材
を発掘・紹介すること、②優秀な
入賞作品を広く公表することで、
学校における金融教育の必要性を
より多くの方々にご認識いただ
くとともに、教育関係者などに実践
例としてご活用いただくことを狙
いととしています。今回のコンク
ールの結果、新たに6作品を紹介
できたことは、大きな喜びです。

金融教育は、子どもたちをはじめとする人々の「生きる力」、すなわち、自ら学び、考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を養う上で大変大事な役割を果たしています。さらに今回の受賞作品にみられるように、金融教育を通して「社会に開かれた教育課程」、「深く対話的な学び」という面でも重要な取り組みが行われています。ここにご紹介した受賞作品が、今後、学校教育の場で広く活用されるとともに、来年のコンクールでも、引き続き優れた作品を実践例として紹介できることを楽しみにしています。皆さまからの積極的なご応募をお待ち申し上げます。

第13回 最終審査員

- 大杉 昭英 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長
- 神山 久美 山梨大学大学院准教授
- 河野 公子 聖徳大学大学院講師
- 松島 斉 東京大学大学院教授
- 向山 行雄 帝京大学大学院教授
- 井上 勝弘 NHK制作局第1制作センター 経済・社会情報番組部長
- 鶴海 誠一 日本銀行情報サービス局長
- 吉國 眞一 金融広報中央委員会会長



最終審査会の様子

*次回、第14回「金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」は、2017年6月ごろ募集開始予定です。